

第4回（仮称）青森県DX推進プラン議事録（サマリー）

日時 令和5年11月22日（水）
10:00～12:00
場所 青森県庁西棟8階中会議室

1 開会

- 全委員出席（12名）

2 議事

- 「（仮称）青森県DX推進プラン」原案や今後の展開などについて意見交換を行った。
- 各委員からの主な意見は以下のとおり。
 - この委員会の委員たちでDXを進めたときのメリットをお伝えできるようなシンポジウムやセミナーを開催できると良い。
 - KPIの可視化と共有が大事であり、分かりやすく広く公開できるとこの計画推進のエネルギーとなる。プランでの産業・教育・防災の重点の3つのDXについてアウトカムに近い指標を設定し、みんながめざしていくものを定めると良いのではないかと。
 - ケアマネージャーは60歳以上の人々が主流となっているので、業界によって大きな差が生じることを考慮し、バランスを考えながらDX推進を進めないと現場が混乱すると思う。
 - KGIは、県民がワクワクし、便利さを増すということ。一方、定量的なKPIはノルマ・目標になるので、その達成のために誰かが割を食うことにならないように、KGIを見据えたKPI設定の意識を強く持つことが重要。
 - 農家の平均年齢は68歳を超えている。一定の年齢を超えた農家にも浸透しないことにはDXが実現しないこともあり得る。県や様々な機関が一体となって生産者のDXを支援する制度がないと達成できないと感じる。
 - 2040年の「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」をめざすための基本目標は定点観測すべきと思う。基本目標の3つのKPIを達成できることが、めざす姿の実現にどのくらい紐づいているかを議論すべき。
 - 掲載しているKPIは、何もせずとも伸びる指標で、このプランはそれを更に向上させることを目指している。他県との比較や全国順位等ではどうか。早さや差別化で県の競争力を測るべきだと考える。
 - 継続的にDXを進めていくには、計画の柔軟な見直しが必要である。特にDXの分野では、見直しをしないといかないと陳腐化してしまうので、年に一度の見直しを必須とすること。
 - 掲載しているKPIは定量的な目標のみに焦点を当てているが、定性的な要素を含むKPIも織り交ぜることで、より包括的でバランスの取れたものになるのではないかと。
 - 中間指標を複数設定すること。捕捉できる数値とアンケートなどを統合して、どのあたりにいま到達しているのかという評価方法にすると、担当課も何をすべきかわかるようになる。
 - KPIの数値を上げることが、具体的にどのような課題解決につながるのかという関係性を示すことが重要である。可能な限りDXによる効果であることが明確であることが望ましい。
 - 町内会でスマホやiPadの教え合いが可能になれば、地域コミュニティの交流も生まれ、教えるデジタル人材が増える可能性がある。この基盤整備のKPIが欠けており、デジタル人材育成及び安心・安全なデジタル利用のKPIが重要と考えられる。

3 閉会